けんびょういん No.15

岐阜県立多治見病院　平成19年　月1日発行　第15号
ホームページアドレス http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/tajimi_hospital/

■発行責任者／舟橋　啓臣
■編集／岐阜県立多治見病院広報委員会

病院の基本理念

基本理念

信頼される地域の基幹病院・高度専門病院として、安全、良質、やさしさ、に基づいた医療を進化させるよう努力します。

行動指針

1.分かりやすい言葉で、分かりやすく説明します。
2.安全を何度も確認することを怠りません。
3.常に高度先進医療を取り入れ、進化を目指し自己研鑽に務めます。
4.倫理観に基づく医療人としての誇りと自覚をもって取り組みます。
5.健全経営に務めます。

患者様の権利と責任

県立多治見病院では、患者様中心の医療を提供するため、患者様との協調関係を大切にしています。

患者様の権利

- 皆様が平等に、安全で最良の医療を受けることができます。
- ご自身の病気や治療について、納得できるまで説明を受けることができます。
- ご自身の治療内容について、治療方法を選択又は拒否することができます。
- ご自身の診療に関わる全ての情報の開示を求めることができます。
- セカンドオピニオン（別の医療機関、他の医師の意見）をいつでも求めることができます。
- 個人情報は保護され、プライバシーは尊重されます。

患者様の責任

- ご自身の病気の情報を可能な限り正確にお伝えください。
- 医療スタッフの指示に従い、療養に専念してください。
- 他の患者様の迷惑にならないようご配慮ください。
- 臨床研修施設として研修医、実習生が医療参加することをご理解ください。

医療安全の取り組み

医療安全部のメンバー

当院では医療安全の確保、医療における信頼の確保を二本柱に立て、安全で質の高い医療を提供することを目的に、次のような取り組みを行っています。

患者様にも、安全で安心できる医療を確保するために、ご理解とご協力をお願いします。

1　医療安全管理委員会の設置

毎月開催し、医療事故をゼロにすべく最大限の努力をしています。医療安全管理委員会は副院長、診療科部長、看護部、薬剤部、中央放射線部、臨床検査部、リハビリテーション科、事務局のすべての部署の代表者が出席して当院の医療安全対策を行っています。

2　医療安全部の設置

医療安全部は副院長、診療科部長、看護部、事務局で構成され、毎月部会を開催していますが、必要時には臨時に開催しています。医療安全対策すべてに関わる実働部隊として、医療安全対策の推進に関わる業務を専門的に行っています。

3　リスクマネージャー制度

各診療科、病棟、外来など各部署には現場の医療安全責任者としてリスクマネージャーを配置されています。各部署の職員への医療安全管理委員会の決定事項の周知徹底と各部署の問題点や改善策の検討を行っています。

4　インシデント、アクシデント報告制度

インシデント（ヒヤリハット）は医療事故に至らなかったが「ヒヤリ」としたり「ハッと」した事例で、アクシデントは医療事故が発生した事例です。

インシデント、アクシデントは医療安全部がすべて報告を受け、これらを一例一例詳細に分析することにより、再発防止に努めています。インシデントでは薬の間違い、点滴・栄養チューブなどの自己抜去が多く、アクシデントは転倒・転落が大部分を占めています。このため生命に直結するチューブを留置する場合などには、やむを得ず必要最小限の身体の拘束をさせていただくことがあります。

5　医療安全についての職員研修

医療安全についての研修会を、全職員を対象に年二回行っており、年一回は院外の先生方に、他の一回は院内のパネリストによるシンポジウムを行っています。また各部署でも研修会を実施し、医療安全に対する意識とスキルの向上に努めています。新人職員に対しても研修を行っています。

6　相談窓口の設置

患者様の医療安全に係わるご意見やご希望をお聞きし、医療安全対策に積極的に活用するために医療相談室を設けています。

7　外部評価の実施

重大な医療事故が発生した場合には第三者による評価を実施するため、外部委員だけの医療事故等調査会を設置しています。

患者様へのお願い

当院では以上の様な多くの取り組みを行っていますが、患者様にもご自身の医療に主体的に参加していただき、ご一緒に医療安全に取り組んでいただき、病院職員・患者様が一丸となって医療事故防止に努めていきたいと思います。

患者様にご協力いただきたいことは次のとおりです。

1　かかりつけ医があれば必ず紹介状を持参してください。
2　患者様の誤認防止のため、患者様ご自身にご自分の姓名を名乗っていただくことがあります。
3　かかりつけ医で服用中のお薬があれば、お薬説明書あるいはお薬手帳を持参してください。
4　当院で検査が必要な場合（胃カメラなど）には、あらかじめ薬（血が止まりにくくなる薬など）を中止した上で行う必要があります。
5　最近に健康診断などを受けておられる場合は、その結果をすべて持参してください。納得できないときは、何度でも質問してください。

副院長兼内科部長・医療安全部長　後藤　和夫

自然気胸について

呼吸器外科　伊藤　正夫

自然気胸とは肺の一部が風船状に変化した部分（ブラといいます）が破れ、空気漏れを起こすために肺がしぼんでしまう病気です。たいていは突然の胸の痛みや呼吸困難があり、レントゲンやＣＴで診断されます。なぜブラができるのかはまだよくわかっていませんので、有力な予防方法はありません。痩せ型の若い男性に多いことや、再発しやすいことが特徴です。

治療方法としては、

(1) 安静

(2) 胸腔ドレナージ（胸に管を入れて肺から漏れた空気を体外に出す）

(3) 手術、

の３つがあります。

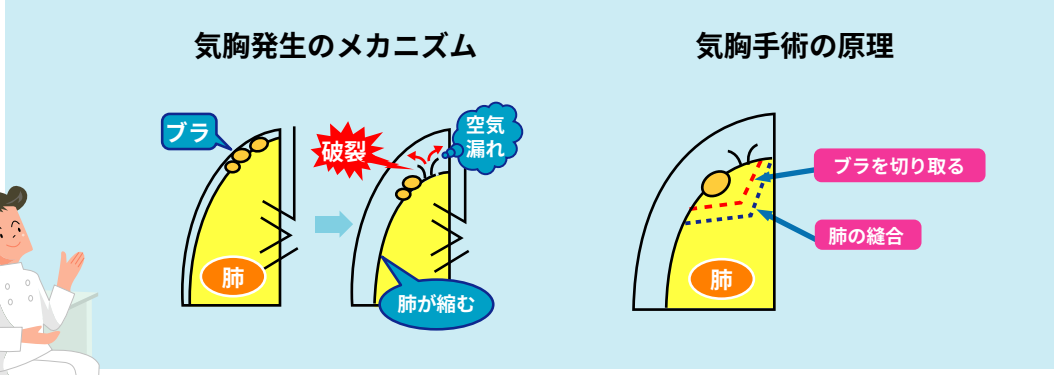
このうち手術は、他の治療にもかかわらず治りにくいときや、一度治ったのに再発したとき、または両側が気胸になった場合や胸の中に出血している場合に行います。

手術は全身麻酔で行います。気胸側の胸に２センチ程度の孔を３ケ所開けて、内視鏡で胸の中や肺を見ながら、原因となるブラを切除します。手術時間はおよそ１時間です。

手術の特徴として、入院期間が短いこと、他の治療法に比べて再発が少ないことが挙げられます。比較的小さな手術ですので、手術の翌日から歩いたり、食べたりできますし、多くの方は術後２、３日で退院されます。

術後の再発は10～20％程度の割合でおきるといわれています。これを少しでも減らすために昨年から、ブラを切った部分に吸収性シートを貼り付けるようになりました。始めてから１年ですが、一定の効果はあるようです。今後も身体にできるだけ優しく、再発がより少ない手術を目指していきます。

手術中の風景



意見箱から　携帯電話の使用について

皆様から携帯電話機の使用に関するご意見をいくつかいただいていましたが、12月１日から病院内での使用可能区域を広めることになりましたのでご説明します。

このたび病院内を「使用禁止区域（電源を切る場所）」「マナーモードで持ち歩ける場所」「使用できる場所」の3つに区分しました。

これにより、１Ｆ正面玄関ロビー（玄関ホール）や２Ｆ総合案内前などでは携帯電話機を使用できるようになりました。また、外来待合室など使用禁止区域以外の場所ではマナーモードであれば電源を入れておくことができるようになりました。

病院は病気をかかえた大勢の方が出入りします。使用禁止区域では電源を切り、電源を入れて良い場所でもマナーモードにして、周囲の人にご配慮願います。また、当院職員は、院内連絡用として、携帯電話機とは異なる専用ＰＨＳ端末を使用しておりますので皆様のご理解をお願いします。（詳しくは院内掲示をご覧ください。）

医療機器に関する話題を紹介します

中央放射線部

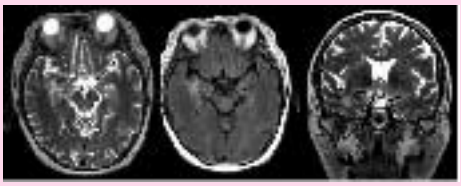
3TMR装置2007年1月稼動

現在の医療において、MR検査は特に重要な役割を果たし、脳虚血疾患、脳腫瘍、脊椎疾患、膵胆道系疾患、婦人科疾患など多くの疾患の精密検査になくてはならない存在です。従来（昨年までは）、一般臨床機の高性能MR装置の座は1.5T（T：磁場強度）装置であり20年変わることはありませんでした。しかし、2006年に3T装置が薬事承認されたことにより現在の最高性能装置の座は3T装置に代わりました。磁場強度が2倍になると画質が約2倍良くなります。

岐阜県立多治見病院では、18年度、0.2T装置の後継機種として先進的な高性能3T装置の導入を決定しました。これは岐阜県下1号機（臨床機では東海3県2号機）となる装置です。3T装置の国内稼動台数はわずかに30台、ほとんどは大学病院や研究機関病院などであり一般総合病院にほとんど普及していない高性能機器です。

3T装置は、以前使用していた0.2T装置に比べ画質が同一撮影時間なら約15倍に向上します。撮影時間を半分にしても画質はまだ約4倍あります。この利点を生かして短時間高分解能撮影が可能となります。その能力は脳の未破裂動脈瘤の検索・微小虚血疾患の検出・微細構造器官の精密検査などで遺憾なく発揮されることになります。世界最高水準画像を東濃地域の皆様にお届けすることが可能となります。

これらの画像を医療連携システムを通じて広く共同利用していただく事により、東濃地域全体の医療の発展に貢献していきたいと考えています。



予約受付開始　18年12月25日
検査開始　19年１月９日
御予約は地域医療機関から医療連携予約システムを通じてお願いします。

装置外観

マンモグラフィ施設画像認定される！

近年マンモグラフィによる乳癌検診が盛んになり、より小さな乳がんが発見されるようになりました。

当院は乳がん検診を行っていませんが、他施設での検診で行われたマンモグラフィと同様かそれ以上の画像を提供できることを目的に、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会の施設認定を申請しました。

その結果、平成18年11月1日付けで同委員会施設画像評価委員会の定める線量、画質について合格し、総合判定評価4段階中、最上位の「A」判定で施設認定をいただきました。（B判定以上が合格）

今後、よりよいマンモグラフィを撮影することでより的確な診断ができるよう努めますので、安心して受診、撮影していただけると考えています。

ありがとうございました

株式会社フルカワ電工（代表取締役古川嘉春）様からリクライニング仕様を含む車いす3台を寄付していただきました。寄付していただいた車いすは病棟の入院患者様介護用として大切に使わせていただきます。

古川様には知事感謝状を贈呈させていただきました。

本当にありがとうございました。

当院医師の研究活動を紹介します

第20回金沢コンピュータグラフィックス談話会で発表

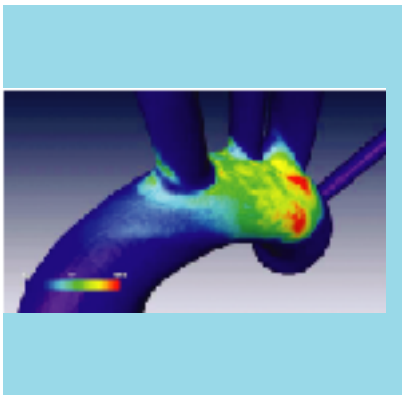
11月11日、金沢市で開催された談話会は、研究者などの参加を得て「社会に役立つCG技術」をテーマに開催されました。その場で、発表者の一人として「人工心肺を使う心臓手術での血流シミュレーション」の結果を紹介しました。

このことは、合併症として1～3％の確立で起こる脳梗塞予防を目的に取り組んだものですが、計算流体力学（CFD）を活用したシミュレーション結果から、血液の量や速度など実測できない情報が得られ、かかる手間などの課題はありますが、方法の工夫次第では近い将来に着目される分野であることを発表したものです。

地元紙でも取り上げられ、今後とも実用化に向けて努力したいと考えております。

（平成18年11月12日北陸中日新聞既報）

心臓血管外科　徳田　順之



国際学会だより 1

私は、9月1日から8日までのバルセロナ（スペイン）で開催されたWorld Congress ofCardiology（世界心臓病学会議）において、岐阜県立三病院・岐阜県国際バイオ研究所・三重大学生命科学研究支援センターの共同で行われた臨床研究の成果について、県立三病院を代表して発表する機会を得ました。

世界心臓病学会議は4年に1度、欧州心臓病学会議と同時に共同開催される世界最大の学会であり、開催国スペイン以外にも数え切れないほどの世界中の多くの国と地域から数万人規模の医師・医学研究者・看護師・臨床検査技師等が参加していました。参加した人々の中にはインドのサリーを着た女性やアラブの衣装を着た女性、ターバンを巻いた男性、ユダヤ教徒の衣装を身にまとった男性などが学会に参加しており、実に国際色豊かでした。バルセロナはスペイン第二の都市で建築家アントニオ・ガウディによる世界遺産サクラダ・ファミリア教会など名所・旧跡も多くあるところ。私の臨床研究はこうした何十年何百年と時間をかけて作られた美しい建築物や芸術作品には遠く及ばないものの、カロリンスカ王立研究所（スウェーデン）のStefan博士をはじめ各国の研究者より賞賛の辞を頂く栄誉に浴しました。

研究発表はポスター展示の形で行われ、急性心筋梗塞とその疾患に関連するヒトゲノム解析に関する臨床研究であり既に学術論文として出版されています（Thormb Haemost 2006; 96: 220-227）。

なお、今回の研究発表の詳細については、現在でも世界心臓病学会議公式ホームページにおいて確認できますので、興味がある方はアクセスして頂きたいと思います。

http://www.escardio.org/congresses/World_Congress_Cardiology_2006/

循環器科医長　加藤　公彦

加藤　公彦

国際学会だより 2

A merican Heart Association (AHA) 79th Annual Scientific Session（第79回アメリカ心臓病協会年次集会）は2006年11月12日から15日までアメリカ合衆国シカゴ市において開催され、私たちは、そこで研究発表の機会をいただきましたので、その概要についてご報告いたします。

AHAは、American College of Caridiology (ACC、アメリカ心臓病学会)、European Society of Cardiology (ESC、ヨーロッパ心臓病学会)と並び称される、世界でも有数の心臓病に関する学術団体です。AHAではメンバーは医師のみならず看護師、薬剤師、検査技師、基礎研究者など循環器学に携わるものが会員となっており、基礎から臨床まで幅広く発表がなされています。AHA年次集会の演題採択率は約8％と非常に狭き門であり、日本からは殆どが大学病院という現状です。今回採択されたのは岐阜県下で当院だけであり、地域中核病院としての役割を担うにふさわしいと考えられました。

私たちが発表した3題（ポスター　1題、口述2題）は、岐阜県の研究事業として遂行されている、ヒトゲノム（遺伝子）研究に関連したものです。本研究は、岐阜県立3病院、岐阜県国際バイオ研究所、三重大学生命科学研究支援センターによる共同研究です。

今回は高血圧症、心筋梗塞、心房細動それぞれに関連するヒトゲノム解析の臨床研究結果を発表しました。（高血圧症の遺伝的リスク・ポスター・小栗発表、心筋梗塞における男女間、環境因子の有無による遺伝的解析・口述・矢島発表、心房細動の遺伝的リスク・口述・小栗発表）

今回このようなすばらしい機会をいただきましたことを皆様に感謝申し上げ、今後も日常臨床に精励努力するとともに、高度先進医療の実践と推進においても努めてきたいと考えております。

循環器科　小栗　光俊
矢島　和裕

矢島　和裕

小栗　光俊

リハビリテーション科について紹介します

地域の救急医療を担っている当院は、脳卒中等の急性期疾患、骨折等の外傷、手術直後の患者様が多く入院されています。こうした中でリハビリテーション科では、急性期治療と平行して急性期リハビリテーションを積極的に勧めています。急性期リハビリテーションの目指すところは、障害の改善が見込まれる時期から効果的なリハビリテーションを開始すること、入院後の安静による廃用症候群（使わないことで起こる筋力低下、関節拘縮、体力低下、意欲低下など）をできる限り予防することです。各種モニター・点滴・呼吸器を装着した患者様のリハビリテーション導入に際しては、リスク管理（全身状態の把握）と病棟スタッフである医師や看護師との連携（治療の進行状況把握）を徹底し、病室でのリハビリテーションを開始します。

現在、医師2名、理学療法10名、作業療法5名、物理療法1名、言語療法3名の専門スタッフが診療、機能訓練を行っています。理学療法部門では、基礎的身体機能の改善や日常生活活動能力の向上を目的とした運動療法、痛みの緩和等を目的とした物理療法（温熱、電気療法）を行います。作業療法部門では、心身機能、日常生活活動、社会生活能力の向上を目的に、様々な作業活動を用いながら援助します。言語療法部門では、聞こえや言葉が不自由な方のより豊かなコミュニケーションの実現を目指した言語訓練、「食べること」に問題のある方には、より安全な方法で食事が摂れるように嚥下訓練を行います。

また、東濃地域リハビリテーション広域支援センターとして、東濃地域のリハビリテーション支援事業も行っています。平成17年度には、「認知症高齢者の理解とケアプランの考え方」をテーマとして講師を招き、講演会を開催しました。デイサービスセンターや介護老人保健施設等への派遣事業として19施設へ出向き、相談事業として30件の相談件数がありました。

今後もますます入院期間の短縮が進むことが予想されます。「早期離床、地域に根差したリハビリテーション」を合言葉に、患者様が1日でも早く社会復帰や日常生活に戻れるよう、地域の皆様に愛されますよう、リハビリテーション科のスタッフ一同は、日々知識や技術の習得を目指しがんばっていきます。

看護部

私たち看護部は、良質な医療を提供するチームの一員として、患者様を支援する役割を担っています。そのために、高い専門性を身につけ優しさと思いやりの心を持って、患者様と共に考え自立へのお手伝いができるよう努力しています。

桜の花が咲く4月に就職した新人看護師たちも、先輩看護師から接遇、マナー、安全な注射法・機器の扱い、救急時の技術等を学びながら、日々努力を重ねてきました。今後も患者様に安心して入院生活を送っていただけるような看護師を目指して成長し続けます。

新人の救急対応研修

編集後記

岐阜県立多治見病院広報誌第15号をお届けします。

10月末に病院機能評価の審査を受けました。結果はまだわかりませんが、審査の準備過程で職員全員が医療サービスについて見直す契機となりました。この経験を今後のより良い医療サービス提供に反映させていくよう努めてまいります。

ご意見、ご要望がありましたらどうぞお寄せください。お待ちしております。

岐阜県立多治見病院　広報委員会
TEL 0572－22－5311
（内線211）

〒507-8522
多治見市前畑町5丁目161番地
E-mail　c22602@pref.gifu.lg.jp

病院で約13年間活動のベテランボランティアさん紹介します

小栗志津子さん

ボランテア開始日　平成５年７月から（月２回）
動機　家族の介護を長年行い、家族の大変さが理解できたから
活動内容　入院患者様の日常生活のお世話
継続の秘訣は　無理をせずにマイペースで
病院に望むこと　多くのボランテアを育ててほしい

加藤はやさん

ボランテア開始日　平成５年７月から（週１回）
動機　ボランテア講座に参加し、そのまま活動を開始
活動内容　入院患者様の洗髪など
継続の秘訣は　入院患者さんの洗髪後の笑顔が忘れられない
病院に望むこと　地域の人々に拡大をしてほしい

募集

病院では入院患者様の日常生活のお世話や外来受診の案内・環境の整備・通訳（手話を含む）など様々なボランテアさんを募集しています。

岐阜県立多治見病院看護部
電話
0572－22－5311（代）
内線303

外来診療表

平成18年12月7日現在

1階

診療科目	初診・再診別		月	火	水	木	金
内　科	消化器初診		後藤	佐野	坂(ばん)	戸川	秋田
	再診	消化器科	秋田	宮部	戸川	後藤	山下
			佐野	上野	吉村	坂(ばん)	内藤
	初・再診	循環器科	日比野	村井	加藤	日比野	小栗
			加藤	横井	吉田	横井	矢島
		膠原病リウマチ科	佐々木	横田	佐々木	横田	—
		腎臓内科	—	坂(さか)	—	坂(さか)	浦濱
		血液内科	花村	—	新美	花村	岩井
		内分泌内科	金山	岩間	金山	—	岩間
	呼吸器初診		福田	森	村松	國井	有賀
	再診	呼吸器科	國井	有賀	福田	森	村松
神経内科	初診・再診		桝田	亀山	桝田	満間	中薮
	再診		亀山	中薮	亀山	中薮	亀山
			中薮	両角	代務	桝田	代務
整形外科	初診	1・3・5週	水野	高津	伊藤	高津	山本
			山本	洪	岩田	門野	洪
		2・4週	水野	高津	伊藤	高津	山本
			岩田	門野	岩田	洪	門野
	再診		門野	伊藤	水野	伊藤	高津
			洪	山本	小林	岩田	水野
	厚生相談		—	—	—	—	水野
形成外科	初診・再診		竹中	竹中	加藤	加藤	竹中
眼　科	初診・再診		鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
			高橋	高橋	高橋	高橋	高橋
放射線科	初診・再診		浅野	浅野	浅野	浅野	浅野
女性外来	初診・再診		—	—	—	—	午前のみ 松下

2階

診療科目	初診・再診別		月	火	水	木	金
精神科	初診		高林	高橋	鈴木	前田	山田
	再診		高橋	前田	高林	高橋	鈴木
			鈴木	高林	山田	山田	前田
小児科 新生児科	初診・再診		中野	岩城	浜田	中野	小久保
			小久保	荒川 太田	立木	岩城	立木
			浜田	中島	向井	荒川 太田	中島 向井
	特別外来		[心臓] 荒川	[相談] 中野	[相談] 中野	[心臓] 水野	[神経] 濱口
	午後	特別外来	[乳児検診] 向井 [1ヶ月診察] 浜田 第1・3・5週 岩城 第2・4週	[心臓] 荒川 [内分泌] 立木 [二次予防接種] 浜田	[川崎病] 中野 [腎臓] 岩城 [アレルギー] 小久保	[糖尿相談] 中野 [血液] 中島	[乳児検診] 小久保 荒川 立木 第1・3週 岩城 浜田 中島 第2・4週
外　科 消化器外科	初診・再診		野垣	末岡	小西	大島	伊藤
	再診		酒向	小西	伊藤	—	酒向
			大島	—	—	—	—
乳腺内分泌外科	初診・再診		野垣	大野	—	(初診) 野垣 (再診) 舟橋	大野
心臓血管外科	初診・再診		—	午後 血管外科	徳田 午後宋	午後 宋	—
呼吸器外科	初診・再診		午後 伊藤	—	—	—	伊藤
脳神経外科	初診・再診		西澤 島戸	伊藤	西澤	伊藤	島戸
麻酔科	初診・再診		間淵・山崎・稲垣・山田・高柳・宮津				
皮膚科	初診・再診		横田	横田	横田	横田 第2・4週	横田
			福本	福本	福本	福本 第1・3・5週	福本
			—	—	—	尾市	—
泌尿器科	初診・再診		高士	桃井	高士	—	桃井
産婦人科	初診		竹田	中村	三井	輪番制	境
	再診	婦人	中村	三井	境	—	竹田
		産科	三井	境	竹田	—	中村
耳鼻咽喉科	初診・再診		冨田	伊藤	上田	伊藤	冨田
	再診		上田	冨田	伊藤	上田	伊藤
歯科 口腔外科	初診・再診		佐藤	堀田	大隅	佐藤	大隅
	再診		大隅	大隅	佐藤	大隅	佐藤
			堀田	佐藤	堀田	堀田	堀田

■診療開始時間　午前9時～(診療科によっては午前8時30分～)

■休診日　土・日・祝祭日、及び年末年始(12月29日～1月3日)

※予約のない方の診療受付時間　初診・再診　午前8時30分～午前11時まで。
※各診療科目担当医師については、都合により代診させていただく場合があります。また、異動により担当医師が変更する場合があります。
※救急診療については、救急外来受付(内線511)まで、お問い合わせください。
※女性外来の予約は、医療連携(内線487)へご連絡ください。

外来診療の電話予約について

混雑緩和と利便性向上のため外来診療は予約制としております。継続して診療を受けておられる患者様には、診察時に次回の予約をしていただきます。予約を保留された場合やしばらく受診のない場合は、電話予約のうえご来院ください。

予約専用電話　0572－21－2200

電話予約受付時間　当日の予約(平日)　8:30～11:00
翌日以降の予約(平日)13:30～16:30

※診察券の患者番号をお知らせください。
※診察券のない初診患者様は、電話での予約はできません。
※診療機関からの紹介患者様については、診療機関から当院医療連携室へご連絡ください。

初診患者様のFAX予約について

当院の受診歴のない方でも、次の項目をFAXしていただければ予約できます。
①氏名(漢字とフリガナ)　②性別　③生年月日　④住所と郵便番号
⑤電話番号（折り返し連絡する電話が別の場合はその電話番号も）
⑥健康保険の種類・保険者名・記号・番号　⑦受診希望診療科名　⑧受診希望日時

初診予約用FAX　0572-22-7948

※折り返し電話予約センターから電話を入れます。ただし、電話予約受付開始から１時間程度は予約電話が混雑するため、すぐにご連絡できない場合があります。また、電話予約受付時間以外の時間帯にFAXされた場合は、ご連絡が次の電話予約受付時間内になります。
※FAXで予約された場合でも、初めてご来院されたときに診療申込書の記入と保険証の呈示が必要です。

R100 PRINTED WITH SOYINK 環境にやさしい古紙100%の再生紙と大豆油インキを使用しています

この広報紙「けんびょういん」は当病院ホームページでもご覧頂けます。
URL　http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/tajimi_hospital/